

c. 経験・知識が不足していた。

・活動内容が、自己の能力や技量を超えていた。	いいえ
・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。	はい
・活動に対する経験が不足していた。	いいえ

d. 心身の不調があった

・体調が悪かった。	いいえ
・悩み事があった。	いいえ

○装備・資機材について

e. 資機材の故障・不具合があった。

・装備・資機材自体に問題があった。	いいえ
・装備・資機材の使用方法が誤っていた。	いいえ
・装備・資機材の対処能力を超えていた。	いいえ
・必要とする装備・資機材がなかった。	いいえ

○活動環境について

f. 障害物や自然環境（雨・濃煙）によって視界がさえぎられた。

・障害物（建物等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ
・特異環境（煙、暗闇、降雨等）のため周囲の状況が見えなかった。	いいえ

g. 行動しにくい環境だった。

・狭隘な場所であった。	いいえ
・暑かった（寒かった）。	いいえ
・野次馬が多かった。	いいえ
・現場周辺の地理に不案内だった。	いいえ

h. 足場が悪かった。

・足元が躓いたり滑りやすかった。	いいえ
・足元の強度が不足していた。	いいえ

○指揮・管理について

i. 適切な指示が得られなかった（適切な指示を与えられなかった）。

・活動指示が得られなかった。（無線が通じない等。）	いいえ
・指示内容に誤り・偏りがあった。	いいえ
・指示内容が実施困難であった。（周辺環境に、隊員技量の把握に欠けた。）	いいえ

k. 関係者間の情報伝達・役割分担が不十分だった。

・隊員の連携が不十分だった。	いいえ
・隊員が不足していた。	いいえ

○その他

l. その他の理由があった。

--

【事故発生後の取り組みについて】

.....

○注意力欠如、焦り等の対策について

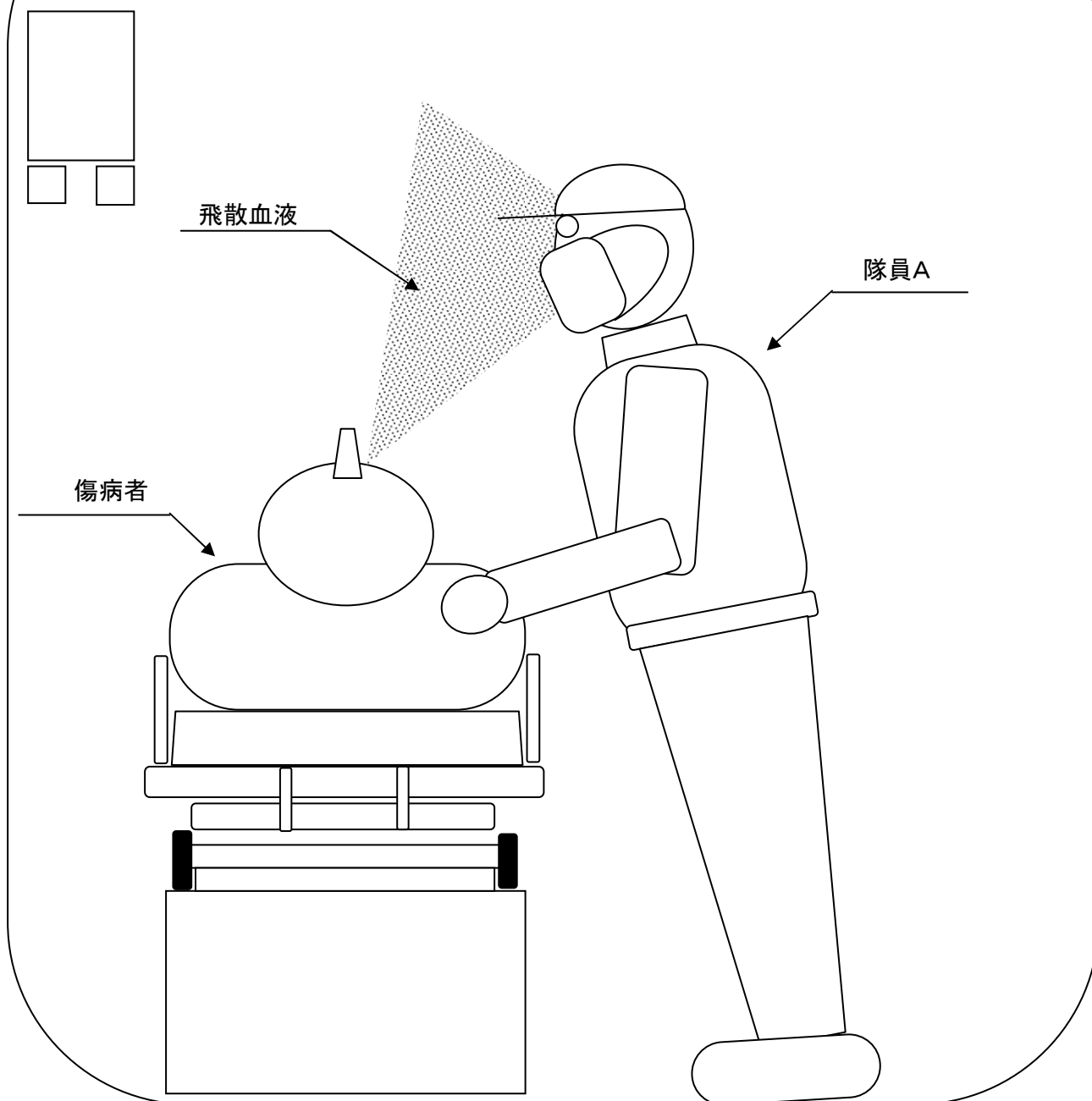
○装備・資機材の対策について

○活動環境の対策について

○指揮・情報伝達の対策について

ヒヤリハット発生状況図(救急車内)

救急車内において救急隊員が応急処置中



・発生日時：平成20年1月2日 午後9時頃

経過	現場の状況	隊員A	傷病者	備考
		隊員／消防副士長 ・年齢 35 歳 ・勤続 12 年 ・現場 11 年 ・同様の活動:頻繁		
	出動指令 交通事故への救急出動 現場到着 泥酔した傷病者を、救急車内に収容し、止血処置。 処置をしながら氏名等を聴取する。 関係者に連絡するなと言う。 事故であるので、連絡したい旨を伝える。 急に暴れだし、口の中の血液が飛散する。 目に血液を被ばくする。 たまたま傷病者が感染症のキャリアではなかったため、大事に至らず。			
	泥酔状態			
	救急処置等の活動に制限ができるため、全ての外傷事案でゴーグル等の装着をすべきであったものを、省略した。			

◎ヒヤリハットで済んだのはどうしてだと思うか？
○直接的な原因：状況判断に問題があった。 ・たまたま、負傷事故にならなかった。
◎ヒヤリハットが起きた背後要因
(心理・体調について) ・1つの事象に集中し、他の事象への注意力を欠いた。 ・活動中に起こりうる危険について認知していなかった。